



「子どもの

居場所」

チャイルドラインの活動について

とくしまチャイルドライン

阿部 和代さん

チャイルドラインでは、18歳までの子どものための電話相談やチャット相談をしています。電話やチャットを通じて子どもの「声」を聴き、その気持ちに寄り添います。

子どもは、本気で自分の話を聞いてもらえた、受けとめてもらえたと感じることができれば、自分自身でその課題と向き合い、乗り越えていく力を持つていきます。そう信じ、



ありのままの子どもを丸ごと応援するのがチャイルドラインです。チャイルドラインの主役は子どもです。子どもを一人の人間としてその主体性を尊重します。主導権は子どもにあり、子どもがやめたくなくなったらいつでも話をやめることができます。

身近な人には話しづらいことも匿名で知らない相手だからこそ話せることもあります。チャイルドラインは、子どもの「声」に耳を傾け、どんなことも子どもと一緒に考えます。全国41都道府県にある70の実施団体とチャイルドライン支援センターが協働で子どもの支援活動を行っています。毎日午後4時から9時まで（12月29日～1月3日は休止）全国約2000人の受け手ボランティアが交代で子どもの話を聴いています。とくしまチャイルドラインは、2010年からチャイルドラインの活動に参加しています。私たちは15年間子どもの話を聴いていますが、生きづらさをかかえた子どもが年々増えてきたように感じています。

子どもの数が減り続けているのもかかわらず、2024年の子どもの自殺者数は過去最多となりました。私たち大人は子どもたちのためにできることを考えていく必要があると思います。

「子どもの気持ちに寄り添い、耳

を傾ける」ということは、大人にできることの一つです。人が生きていくためには心のよりどころとなる居場所が必要です。話を聴くことはその子の居場所になることです。一人で抱え込んでいるつらい思いやしんどい思いを誰かに話すと気持ちが少し楽になります。

私たちはこれからも子どもの気持ちをうけとめ、否定しないで話を最後まで聴き、子どもがホッとできる「こころの居場所」になれるよう努めていきたいと思っています。

こどもへの暴力（いじめ、虐待、性暴力、デジタル性暴力など）や、こどものエンパワメントに関する講師の派遣依頼は
▼阿南市人権教育・啓発講師団 講師

課題ごとの講座は
▼阿南市人権教育・啓発市民講座（次回開催予定4月28日）

詳しくは、市ホームページもしくは人権・男女共同参画課まで

問い合わせ

人権・男女共同参画課
☎22-3094

「すべての拉致被害者の帰国をめざして」パネル展

期間 3月2日(月)～27日(金) 場所 市役所1階 高層部エレベーター前
拉致問題に関するパネルを展示します。ぜひご覧ください。

問い合わせ 人権・男女共同参画課 ☎22-3094

